

会 議 要 録

会 議 名		令和２年度 第３回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和３年２月１日（月）午後１時３０分～午後３時００分
場 所		小平市役所６階 大会議室
出席者 等	委 員	１３名（欠席者 ３名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		０名
会議 内容	１ 開 会 ２ 議 事 （１）若者応援ガイドブックへの掲載内容について ３ 情報交換・意見交換 ４ 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 児童養護施設退所者等へのアンケートのお願い（様式）及びアンケート結果 若者応援ガイドブック（案） ひまわり 第４１号（令和２年度）「社会を明るくする運動」作文集 ひらく ― 未来をひらく、こころをひらく ― 令和２年度版 こだいら子育てガイド	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

１ 議事

（１）若者応援ガイドブックへの掲載内容について

委員	若い世代の方々にとって、このガイドブックにはどういった内容が盛り込まれていると有意義なものになるのか。
委員	例えば不登校の生徒に対して、無理に学校に行かなくてもいいと考えている親も増えてきていると感じている。そうした生徒が自分の力だけでは復帰できないときに、市が支援する体制を整え、それを周知する手段は大切だと思う。実際にどの程度周知は行われているのか。
委員	<p>小平市が若者支援をしているということを教員が知らない現状がある。今後は、教員から子ども達へ、もし将来つまづいてしまっても立ち直るチャンスがあるということを伝えていかなければいけないと思っている。</p> <p>中学校では、生徒が社会的自立を目指し、自分の居場所や進路先を見つけられるようにすることが教員たちの仕事である。卒業した生徒に対して積極的に働きかけることは難しいが、そのようなときにガイドブックの情報があると救われる子どももいるはずなので、子ども達へ発信していきたい。</p>

会長	ガイドブックの今後の広報はどのように考えているのか。作成したと広報しても、その作成したという情報が届かない若者に対してはどうするのか。
事務局	まずは、中学校や関係機関、関係団体への配付を考えている。また、市ホームページにも掲載する予定である。情報が届きにくい若者に対して発信する方法は今後の課題である。
委員	小学校のPTAなどの団体へ、市の支援策の案内を何度も重ねて行くことで、だんだんと理解され、周知が進んでいく。そのツールとしてガイドブックを活用できるのではないかな。
委員	ガイドブックの中を見れば詳しい情報が書いてあるが、中身まで見ない人もいる。悩んだら相談できる総合窓口を一番初めに記載して伝えてあげるのが良いと思う。
事務局	総合窓口としては、18歳以上であれば東京都若者総合相談センター「若ナビα」、中学生から19歳までであれば小平市ティーンズ相談室ユッカを掲載する構成としている。
委員	目次の大きな項目の「I 悩んだら、連絡してみよう」のタイトルを、「まずはここへかけてみよう」というような見出しにすると、悩んだ方が相談できる総合窓口へすぐに繋がれる構成になると思う。そこから次の支援先へ繋いでいければ良いのではないかな。
会長	小平市ティーンズ相談室ユッカは、総合窓口としていろいろな支援先を紹介してもらえるのか。
事務局	相談者の話を聞き、必要であれば他の支援機関へ繋ぐことを行っている。
委員	<p>民生委員の中でもガイドブックを周知していきたい。</p> <p>相談を受ける側として、その方の困りごととは違うところに繋がなければならない相談もある。たらいまわしのように受け止められてしまうかもしれないが、相談先が1つで済むということにはなかなかいかず、先方にも事情を伝えながら進めている。</p> <p>まずは相談できる総合窓口へ繋げることは、とても良いと思う。困っている、悩んでいることを言わない子が多いので、言って良いんだよということを教育現場でも子どもたちに教えてほしい。</p>
委員	<p>悩みを直接相談しないで、インターネットやSNSを通じてストレスを発散し、折り合いをつけようと一人で頑張ろうとする子が増えている。そういった子たちは、学校では保健室に行く機会が多いようなので、保健室にガイドブックが配架されていると良い。また、表紙のデザインも、困っている子どもたちが手に取るようなインパクトのあるものにして、電話番号とQRコードを載せて、そこへ連絡すれば救われるかなと思えるような冊子が良いと思う。</p> <p>若い世代は長いものや重たいものを敬遠し、見たら直感で理解できて連絡できるものを好むので、そういったガイドブックであると活用できると思う。</p>
委員	<p>このサイズだと、行間は取れているが字が小さいと思う。目次からして字が詰まっていると次を読もうとする気が起きないので、工夫すると良い。</p> <p>また、地域教育コーディネーターとして中学生を見てみると、トランスジェンダーを含めいろいろな子が増えてきており、それゆえの悩みを抱えた子どもたちもいる。そういった子どもの多様性を理解し、こちらも柔軟性を持</p>

	って接してあげることが必要だと感じた。
委員	<p>支援者としてやってあげようという精神は大切だが、子どもが一人で頑張れるのであればそれでも良いと思う。子どもが一人で頑張ったり、相談したりすることを、自主的に選択できるようにしてあげることが大切であり、支援者も柔軟性を持ってそれを受け入れてあげるのが良いと思う。こういったガイドブックも、支援者側が積極的に広めるより、子ども達が自主的に活用できるようになると良い。また、周知する際は子ども達の目につくように、例えば教育委員会のこげらネットホームページなどに載せ、そこから情報を得られるようにすると良い。</p> <p>また、実施したアンケートの母数が少ないのではないかと感じた。</p>
委員	<p>このガイドブックのターゲットが困っている子や悩んでいる子であれば、不安な気持ちをほぐし、次に踏み出そうと思えるものが良いと思う。例えば、励ましのメッセージや、「友人に相談してみよう」などの選択肢があり、その一つとして相談窓口があるという構成にするのも良いと思う。</p> <p>また、色使いや見出しなどを工夫し、自分が見たい情報へすぐにたどり着けるように体裁を整えていくと良い。</p>

2 情報交換・意見交換

委員	<p>このガイドブックは段階的に活用できれば良いと思う。学校などに配架しておいて、悩みを抱えた子どもが自分で手に取ればそれで良いし、それが難しい子には先生がガイドブックの相談先を教えてあげれば良い。</p> <p>警察署の少年係は、いろいろな相談先の知識を持っていて、相談内容に応じて相談先を紹介し、前に進めるように支援している。このガイドブックもこれだけが支援の答えではなくて、いろいろな方面で活用できるものとして使っていければ良いのではないかと思った。</p>
委員	<p>小平市が子ども・若者計画を策定し、若者を支援していく姿勢を持っていると知ることができたことが一番大きかった。今後も子ども達に発信していけたら良い。また、協議会の中で若者の意見を聞くことができたのも有意義な経験だった。</p>
委員	<p>児童養護施設退所者への特別給付金について、施設の卒業生から本当に助かったという話を聞いている。小平市が力を入れてくれたことに感謝したい。施設の卒業生とは、いつでも連絡ができる関係性を保つことを大事にしているし、相談したいと思えるような姿勢をとるようにしている。これからは各支援機関のみなさんとともに支援をしていきたい。</p>
委員	<p>一人の支援者が支援することには限界がある。例えば、悩みを抱えた相談者が友人に相談し、友人が悩みを解消してあげられればよいが、逆に友人が負担に感じてしまうこともあると思う。そんなときに友人がこのガイドブックを活用することで、相談者に相談窓口を教えたり、もし相談者が直接相談するのが難しければ友人から相談窓口に伝えたりできるので、友人も安心して相談に乗れると思う。</p>
委員	<p>家庭環境が肝要であるということを改めて感じた。課題のある家庭の子どももの立ち直りを、社会を明るくする運動を通じて支援しているが、そういった家庭を地域の大人がサポートしていけるようになることを願っている。</p> <p>また、若者が悩み、苦しみ、自ら命を絶つ連鎖を絶対止めなければいけない。気づいてあげられるような視点を忘れないようにしたい。</p>

	<p>青少年に係る課題は尽きないと思うが、これからも相談できる仲間としてみなさんとともに前に進んでいきたい。</p>
委員	<p>児童相談所への相談件数が年々増えている。これは地域の関心が高くなっているということでもあるので、引き続き関係機関のみなさまと協力しながら支援にあたっていきたい。</p> <p>18歳になる直前に相談をしてくるケースも多い。友人に背中を押されて相談に来る、あるいは友人が直接相談に来る場合もあることから、年齢が高くなったからといって必ずしも自分から相談に来られるだろうと安心しない方が良く感じている。</p> <p>ガイドブックに関しては、支援者へ十分に周知し、必要なときに活用してもらえると良い。また、ガイドブックの中の必要な情報を相手に渡してあげたいときに、インターネット上からダウンロードできるようになると良い。</p>
委員	<p>このような場に参加してとても良い経験ができた。私は昔から小平市に住み、この地域が好きだが、昔あった近所のつながりが薄くなっていることを感じている。最近引っ越してきた人たちは、その人たち同士は仲良くなるが、昔から住んでいる人とはあまり関わろうとしない。人が増えることは良いが、そういった近所のつながりがなくなってしまうのは寂しい。</p>
委員	<p>みなさんからたくさんのご教示いただいたことを感謝したい。この場で話をする中で、青少年が健全に育つための環境は、青少年だけに目を向けるだけでは改善されないと感じた。自分の同級生も子どもが生まれて親になる友人が少しずつ出てきたが、どこにも言えない育児のストレスをSNS上で吐き出しているのを見ることがある。親として頑張っていると尊敬するが、一方で、親も弱みを吐き出せる場所があっても良いと思う。今後はそういった場所がさらに必要になってくるのではないかと感じた。</p>
委員	<p>市民の一人として、いろいろな立場の方々からの意見、行政の現状など、多面的な意見が聞けて刺激になった。今後も自分が社会と関わる場面で活かしていきたい。</p> <p>ガイドブックについては、積極的に推進してってもらいたい。このガイドブックは使う人によって使い道は変わると思う。このツールをどのように活用していくかは、それぞれの支援者のみなさんが考えていけば良いと思う。</p> <p>表紙の裏側「不登校の方」という表現に違和感がある。学校に行きたくても行けずに苦しんでる人にとって、こうしてひとくりにされてラベルを貼られてしまうことは抵抗があるのではないかと感じた。表現を工夫してもらいたい。</p>
委員	<p>有意義な会議の場で学びの機会を与えていただいたことを感謝したい。子どもの幸せを願って子育てをしようとしても、うまくいかないこともある。そういったときに身近なところに親向けの相談窓口があると良いと思う。</p> <p>今後はここで学んだことを活かし、近所の母親たちと連携し、楽しく子育てできるような輪を作っていきたい。</p>
委員	<p>この協議会の場に参加して、実りの多い2年間だった。若い世代の意見を聞く機会がなかなかないので、とても参考になった。支援者として、支援を押し付けるのではなく、柔軟性を持って子どもたちを見守っていきたい。</p>
委員	<p>学びの多い1年間だった。いろいろな立場でいろいろな人と携わらせていただいている中で、青少対は地域に根付いている団体として、もっと地域の人を知ることが大切だと感じた。今後活動が続けていく中で、もっとたくさんの人と関われる機会を増やしていきたい。昔は家に鍵をかけないでみんなで子育てをしていた経験があるが、小平市もそのような環境になったら良い</p>

	<p>と思う。</p>
<p>会長</p>	<p>各委員とも鋭い視点を持ち、さまざまな意見をいただき、とても参考になった。私は信条として、教育は未来を創る仕事であると思っている。今の若者が30年後に日本の中心として活躍しているくために、今我々が応援できることをして、若者たちへバトンを渡していきたい。</p>